

ひので映画大使最新版

第19回 映画大使 「あしたのジョー」

期 日 平成23年2月12日(土)

場 所 ワーナー・マイカル・シネマズ日の出

【ストーリー紹介】

ビートルズが解散し、アポロ13号が打ち上げられたころ、日本人の心をひとつにした漫画があった。高森朝雄が書き、ちばてつやが描く野性のケンカ屋・矢吹丈とエリートボクサー・力石徹の命を懸けた戦いに全ての人が熱狂し、その人気は社会現象と化した。

累計発行部数は2500万部以上。テレビアニメ化されれば最高視聴率31.6%。しかし、それらの数字以上に、人々の魂に深く刻まれる伝説となった。



(C) 2011 高森朝雄・ちばてつや / 「あしたのジョー」製作委員会

それから40年。この漫画史上最高傑作と謳われるスポーツ漫画の金字塔をフィルムに焼きつけるという野心的な挑戦が行われた。

監督は曾利文彦。舞台となる昭和の下町を5000?uのオープンセットで完全再現。リアルと最新CGの融合で原作の世界を映画に昇華させる。

「あしたのジョー」実写映画化。

映画大使の「感動と感想」をお伝えします。



今回はご覧の皆さんに参加していただきました。

～映画を見た感想や感動を、ストーリーは伏せて「みなさん」に紹介するコーナーです～



実際の会議風景です。

今回選ばれた「映画大使」のみなさん。本作品への様ざまな感想が話されました。

▶ 映画大使の「第一声！」

- ・あなたにとって「あした」とは何か？
- ・草食系男子よ！これを見て立ち上がれ(女性の意見)

▶ 映画大使の「映画のツボ！」

Aさん

男性的な映画と思っていたのですが、人生観が溢れていて江戸時代の這い上がっていく下級武士の精神みたいな「最後まであきらめない」「頑張れば何か得るものがある」と思いました。香川照之さんはボクシングが大好きとのことですが、俳優としての香川さんは凄かったです。

昨年の12月に初めて日の出町で行われた撮影を見学しましたが、それを見て映画の撮影は、本当に大変なんだと思いました。今日の映画を観るのはいつもとは目線が違い、最後の最後のエンドロールまで観て、製作の裏方さんまで記載されているエンドロールをしっかりと観てしまいました。新しい映画鑑賞の方法を見つけました。

Bさん

久しぶりに見ごたえのある映画を観ました。感想を話す感動が逃げてしまうようで話したくないくらいです。「映画って良いですね」って本当に今日思いました。

自分の人生感を変えた映画のひとつになりました。チラシに書いてある「この時代の若者にジョーは、いるか？」を見ると映画を見ながら思いました。自分が若い時に熱意を持っていた頃を思い出して「あの時、俺はジョーだったんだ」と思いました。

Cさん

私が最近聞いた話で「映画っていうのは現代のオペラ」とありました。オペラは入りにくいのですが、映画は入りやすく「総合芸術」として最近映画を見られるようになっていきます

ボクシングはある面では「スポーツではない」という意見もありますが、今日の映画を観ると「運動と精神の総合的なスポーツ」だと思いました。この時代は何もないので、全てをボクシングにかけることが出来たのではないかと。それに比べ今の若い人はいろいろとあるので、一筋に打ち込めないのが可哀そうかな・と思いました。時代的に良くなった分、失われたものもあるのではないのでしょうか。

Dさん

小さい時に見ていた漫画なので懐かしさもありました。アニメを実写した作品でしたが山下さんと伊勢谷さんと香川さんの熱演が凄く危機迫るものがありました。丹下さんの涙橋のセリフとジョーがリングの上で丹下さんに言った二つのセリフはサンプルでしたが、心に残っています。

Eさん

原作の漫画は良く読んでいました。今回の作品は、脇を固める役として出演している香川さんの気持ちが入っているのがわかりましたし、伊勢谷さんの減量シーンは観てられない程の肉体にして、山下さんの肉体改造も凄くて観て良かったなって思いました。

最近草食系男子が流行っているんですけど、この映画のように夢を持って何かを頑張っている男子であって欲しいです。

Fさん

漫画の丹下さんの顔を表現するのは、実写には難しいと思いましたが、わざわざらしくなく、香川さんが演じてしまうのは驚きました。身体の作り方も本物のボクサーのような肉体で、ボクシングのシーンも演技でない本当の試合に見えました。試合のシーンは、途中であの死闘が怖くなってしまいうらい真に迫っていました。映画を観終わったらどっと疲れる程でした。

Gさん

原作は知らないのですが、知らないからこそ内容に集中できました。主人公の「こぶしの重さ」の意味や、どうやって「明日」を築いていくのかなど考えさせられるところがありました。ジョーは喧嘩でなく「闘う」「命の大切さ」や感謝の気持ちを言えるまで成長して、ジョーが成長するのに周りも変わっていくところが良かったです。

Hさん

原作を知りませんでしたが、何かを本気でやるのがこんなに良いことかを教えてくれた映画でした。

🔍 作品の内容（印象に残ったシーンなど）

- ・カ石徹はファンが多くて、実際にお葬式もあったし法事もしているんですね。どちらかというとカ石徹のファンです。
- ・二人の頑張る姿を中学生に見て欲しいです。学校の事業で見せても良いかもしれません。今の子供たちに訴えるものがあると思います。
- ・ジョーよりカ石徹がかっこ良かったですね。彼の心情を見ると人間的に魅力を感じて、私も彼のようにストイックになれば良いな…って思います。
- ・顔が殴られているシーンはCGを使っていないと聞きました。あのゆがみは迫力ありましたね。
- ・前半のシーンで涙橋での丹下さんが話す言葉は良かったですね。
- ・倍賞美津子さんが少しだけ出演していますが、セリフもないのに何で存在感があるのでしょうか。役者の重みを感じました。

🔍 まとめ

大使の方々は映画の中の「あした」について議論になりました。みんなそれぞれが様々な「あした」があるのでしょうか。ジョーやカ石徹のように、がむしゃらに突き進む、姿に心打たれました。

追記] 上映中のセリフをじっくり聴きたいシーンで、どなたかの携帯電話がなりました。最後のエンドロールで携帯電話をチェックしている高校生がいて残念でした。ひので映画大使は映画鑑賞の仕方を模範となるようしています。みなさん映画鑑賞のマナーアップにご協力ください。

➡ [関連ページ: ひので映画大使のトップに戻る](#)

問い合わせ先: **教育委員会文化スポーツ課社会教育係**
電話042-597-0511(内線544)

◀ [前のページへ戻る](#) | [ページトップへ](#) ▶